

令和2年度 山村活性化支援交付金事業実施評価書

1. 事業名

山村活性化支援交付金事業

2. 事業実施主体名

マロンの里を元気にする協議会

3. 事業概要

・事業目的

マロンの里交流館を拠点として、農業を中心に地域の魅力と価値を掘り起し、商品開発に取り組みながら、雇用と定住を目指し、地域の活性化を図ることを目的とする。

・事業費・交付額(単位:円) 事業費 8,722,264円 交付額 8,722,264円

・事業実施期間 令和2年6月5日 ～ 令和3年3月31日

4. 実績評価

(1) 目標の達成状況等の総合的評価

マロンの里交流館の売上は、新型コロナウイルス感染拡大の影響でイベント等が全くできない状況であったが、新商品を報道機関や市広報紙で取り上げてもらうなどPRを地道に行った結果、目標達成には届かなかったが初年度の平成30年度と比較して約7,500千円増、2年目の令和元年度と比較して約5,500千円増加した。

一方で、地消地産を進める給食センターへの出荷については、初年度、2年目と順調に伸ばしてきたが、最終年度は新型コロナウイルス感染症の影響による学校休校などの影響もあり減少となった。

(2) 取組状況

(2) 地域の人材育成

月に1回の『マロンの里を元気にする協議会』を継続して開催し、栗の生産及び管理出荷体制の検討を中心課題としながら、料理開発・商品化を図った。

併せて、給食センターが求める野菜や顧客が求める野菜について、出荷者対象とした説明会を開催し、交流館と給食センターへの出荷量増加を呼びかけた。また、現在雇用している事務局員を中心に人材を育成を行った。

(3) 販売促進とマーケティング調査

新型コロナウイルスの感染拡大の状況を見ながら、できる限り土曜市を開催し、PR等を進めた。また、新商品の生産及び販売体制を完成させるとともに、ホームページを改良して情報発信を強化するとともに、SNS等も活用して情報発信を行った。

(3) 事業実績

①月に1回『マロンの里を元気にする協議会』を開催し、マロンの里に関わる人たちが自由に思いを話し合う機会をつくり、意見交換を行った。また、コーディネータとともに地域住民の意識醸成を図り、人材育成として、協議会事務局員として地元の若者の採用を続けた。

②地元住民の協力を得て、新商品の開発及びブラッシュアップを進めた。

③毎月給食会議に参加した。

④土曜市(朝市)を新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、小規模ながら継続した。

⑤HPの改良やSNSで情報発信を行った。

⑥視察を行い、魅力の創造や売り方などについて学んだ。

(4) 実施体制

マロンの里を元気にする協議会

(5) その他事項

5. 事業実施結果

・目標達成状況

指標	目標値	実績値	達成率
マロンの里交流館の売上	48,000千円	38,964千円	81%
事業を推進する協議会の事務員	1人	1人	100%
給食センターへの農産物出荷量(販売額)	1,400千円	421千円	30%

(計測方法) マロンの里決算資料

・所見

マロンの里交流館の売上については、新型コロナウイルス感染拡大の影響によりイベント等が実施できなかったが、新商品の反響も大きかったこともあり、売上が大きく伸びた。また、売れることで利用客も減少することなく、マロンの里交流館の活性化につながることを皆が実感できた。

今後は、新商品をより安定的に提供できる体制及びその他の商品開発を行うなど、更なる売上増・集客増に向けて取り組んでいきたい。

また、給食センターへの農産物出荷量(販売額)については、引き続き、目標値を上回るよう、働きかけを行っていく。